

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720090

研究課題名(和文)マリヴォーの作劇法を中心とした18世紀フランス演劇に関する基礎的研究

研究課題名(英文)A Study of Eighteenth-Century French Theatre through Marivaux's Dramaturgy

研究代表者

奥 香織 (Oku, Kaori)

早稲田大学・演劇博物館・招聘研究員

研究者番号：30580427

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円、(間接経費) 510,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、マリヴォーの作劇法を中心に18世紀フランス演劇に関する基礎的研究を行い、特に世紀前半の演劇の諸相、作劇法とその特徴を検討した。社会的・文化的背景を明らかにした上で、戯曲分析および当時の舞台実践(演技と上演)についての調査・研究を行い、両者の関係性に注目して作劇法を考察した。また同時代の他の戯曲も調査して世紀前半のフランス演劇の全体像を明らかにしながら、マリヴォーの作劇法の特異性を相対的に示すことを試みた。この研究により、上演に際し観客との関係において機能するマリヴォー独自の「露呈の作劇法」とその演劇性が明らかとなり、18世紀フランスにおける演劇創造の一端を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the first period of eighteenth-century French theatre through a close analysis of Marivaux's dramaturgical innovations. After an examination of early-modern France's social and cultural context, I analyze Marivaux's plays as well as scenic practices (acting and performance techniques and considerations) during this period. More specifically, I examine Marivaux's dramaturgy in light of the dynamic relationship between staging practices and dramatic literary invention. Furthermore, by analyzing other dramatic authors of the period, my goal is to illuminate the unique scope and aims of Marivaudian dramatic practice. This study ultimately shows the emergence of a dramaturgy of "discovery", which characterizes Marivaux's theatre and its theatricality; this interpretation of his art reveals how Marivaudian theatre established a powerful relationship between the play and the audience at this important moment of French theatrical history.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：芸術学 文化史 18世紀フランス 演劇 マリヴォー

1. 研究開始当初の背景

フランスの18世紀は、演劇史上、重要な時代でありながら、未だ十分に研究がなされていないとは言い難い。世紀を代表する作家マリヴォーの劇作品に関しても、その戯曲性と演劇性を総合的に明示する研究がないのが現状である。

マリヴォーはコンメディア・デッラルテの伝統を継承するイタリア人劇団の影響を受け、作品の多くを同劇団に提供している。しかし、イタリア人劇団がオペラ・コミック座と合併した後(1672年以降)その多くは忘れ去られるか、「軽やかなサロン劇」として上演されてきたため、演劇としての重要性が軽視されてきた。この状況は20世紀初頭に変化するが、それでもなお従来の解釈は払拭されきれず、演劇史におけるマリヴォーの位置づけは明確にされていない。この状況を打破する為には、上演と観客を視野に入れた作劇法研究を行う必要がある。

18世紀を代表する作家の作劇法と独自性の解明は、18世紀フランス演劇の全体像を把握することにつながる。また、前後の世紀(17世紀・19世紀)の演劇をより深く理解することにもつながる重要な研究である。

一方、日本ではマリヴォー研究者が極めて少ない。そのため、まとまった研究書が提出されておらず、未翻訳・未紹介の作品も多い。よって、マリヴォーおよびその海外での研究動向の日本への紹介も急務である。

以上の背景を踏まえ、マリヴォーの作劇法を中心に、18世紀フランス演劇に関する基礎的研究を進める。

2. 研究の目的

(1)18世紀フランス演劇に関する研究は近年進展をみせているが、それでもなお演劇研究の中では研究が遅れているのが現状である。その中でも、特に研究が進んでいない18世紀前半の劇作家と喜劇作品に光をあて、その諸相を明らかにし、演劇史における重要性を示すことを目的とする。なかでも18世紀を代表する作家マリヴォーの作劇法を中心に、この時代のフランス演劇に関する基礎的研究を行い、特に世紀前半の演劇の諸相、作劇法とその特徴を明らかにする。

(2)マリヴォーは18世紀を代表する作家であり、なおかつ古典と称される戯曲の中では上演回数(現代)もモリエールに続くほど多い。しかしながら、従来の研究では演劇学的視点からの研究が軽視され、文学的アプローチが主流であった。そのため、作劇法に関する総合的研究が進んでおらず、演劇における位置づけも、古典主義(17世紀)とロマン主義(19世紀)に挟まれた「過渡期」という評価に留まっている。そこで、観客と上演を視野に入れたマリヴォー劇研究を行って作劇法の特徴を包括的に明らかにし、演劇史におけるマリヴォーの位置づけを明確にする。

3. 研究の方法

(1)マリヴォー劇およびその作劇法の独自性を明らかにするために、まずは、これまで行ってきたマリヴォーの作劇法研究を発展的に継続し、まだ十分に取扱いしていなかった劇作品を中心に、戯曲分析を行う。

これまでの研究を通し、マリヴォー劇では、登場人物やさまざまな演劇的手法(劇中劇や変装)が「社会を異化してみせる装置」すなわち作家の世界観を垣間見せる装置として機能していることが明らかになっている。そこで、特に「社会の表象」とその手法、および登場人物の機能に注目して分析を行い、マリヴォー作品が提示する人間像、世界観を明らかにする。その際、マリヴォーの劇作品以外の作品(小説・エッセイ等)の研究も行い、マリヴォーの作劇法の特徴を、作家の文筆活動全体において明示する。

(2)作劇法を真に理解するためには、観客と上演を視野に入れた研究を行う必要がある。特に、マリヴォーは、当時のパリで活躍した性質の異なる二つの劇団に作品を提供しており、俳優の演技を想定した上で執筆を行っている。そのため、当時の舞台実践と作劇法の関係性を明らかにすることが求められる。そこで、当時の上演状況や俳優術に関する調査を行い、マリヴォーの作劇法との関係性を詳細に検討する。具体的には、当時書かれた批評や日記から上演状況を明らかにした上で、同時代人の証言やこの時代の演技論・俳優術を調査し、作劇法との関係性を考察する。また、実際に作品を提供した劇団の俳優の演技と作劇法の関係も検討しながら研究を進める。

(3)マリヴォーの作劇法を相対的に明らかにするために、同時代の他の劇作家の作品との共通点・相違点を検討する必要がある。そこで、マリヴォー以外の劇作家の戯曲を、特に「社会の表象」、「社会風刺」という観点から調査・検討し、マリヴォーの作劇法との比較・検討を行う。この作業を通し、18世紀前半のフランス演劇の諸相を明らかにしながら、マリヴォー劇の特異性を相対的に浮かび上がらせる。

(4)調査は、国内においては、主として早稲田大学図書館、同大学演劇博物館で行う。また、大学の長期休業期間には、フランス国立図書館(パリ)に赴いて調査収集をしながら研究を進める。

なお、日本国内には専門家が少ないため、海外の専門家からの助言を受けることや意見交換の場を設けることも必要不可欠である。そこで、パリへの調査出張の際には、資料収集のみならず、18世紀フランス演劇の専門家と意見交換を行い、研究動向の把握と学術交流に努める。特に、18世紀フランス演劇研究の第一人者であるパリ第四大学ピエール・フランツ教授と意見交換を行い、研究を進める。

4. 研究成果

(1) 初年度は、「社会の表象」の手法に注目して、マリヴォーの劇作品に関する総合的研究を行った。特に、作劇法を上演との関連で明らかにするために、当時の演劇状況およびマリヴォー劇の上演状況を調査し、作劇法との関連性を検討した。

マリヴォーは、性質の異なる二つの劇団（フランス人劇団・イタリア人劇団）に作品を提供しているが、創作の際、演じる俳優の特徴・演技を想定して作劇を行っており、登場人物の創造は演じる俳優の個性と密接に関係している。この特徴は、特にイタリア人劇団に提供された作品に強く見られる。そこで、同劇団に提供された作品とその上演状況を主な研究対象とし、フランス人劇団に提供された作品との比較を行いながら研究を進めた。俳優の個性やコンメディア・デッラルテの「型」を生かして創造された登場人物は、その特徴に即した手法で当時の社会や風俗を異化してみせる役割を担っており、この点は最初期の小作品にも見出され、以降の作品では異なる手法で認められた。

この研究により登場人物の創造とその機能という点から、18世紀前半の作劇法の一部を明らかにすることができた。研究成果は、国際演劇学会（2011年8月）、早稲田大学演劇博物館グローバルCOE 紀要（2012年3月）で発表した。また、18世紀フランス演劇を日本に紹介する活動の一環として、俳優タルマと画家ダヴィッドの影響関係に関する講演およびマリヴォー劇に関する講演（パリ第四大学、ピエール・フランツ教授）を翻訳し、同グローバルCOEの報告集（2012年3月）で公表した。

(2) 2年目は、前年度に得られた成果を踏まえ、特に演技の視点から18世紀フランス演劇に関する研究を進めた。主として当時の演技論、同時代人の証言、戯曲等を調査・検討し、当時の演技方法を明らかにした上で、マリヴォーの作劇法との関連性を検討した。

マリヴォーが作品を提供した二つの劇団のうち、イタリア人劇団では、俳優と役柄が一体化しており、その「自然な」演技が特徴であった。本研究により、これらの特徴が、まずは同劇団に提供された作品の枠内でマリヴォーの作劇法に組み込まれていくが、最終的には両者の共同作業の枠を超えて作劇法の形成と発展に影響を与え、作家の創作活動における想像力の源となっている点が明らかとなった。

なお、同劇団の演技は、当時の「フランス式」演技からすれば異質なものであったが、本研究では、その独自の演技様式が同時代のフランス人作家に与えた影響を示すことで、彼らの演技が18世紀フランス演劇界において重要な役割を果たしている点も明示した。

研究成果は、まず、18世紀パリのイタリア人劇団とその演技に関する研究を論文にまとめ（2012年10月）次に、同時代の演技と

マリヴォーの作劇法との関係性に関する研究を口頭発表（2012年10月）および論文として公表した（2013年3月）。また、日仏共同の国際シンポジウムにて、演劇性の観点からマリヴォーの作劇法について発表した（2012年10月）。

(3) 最終年度は、これまでの研究を総括し、マリヴォーの作劇法の特異性と同時代のフランス演劇の関連を探った。また、マリヴォー劇の舞台芸術としての普遍性も検討するために、分析対象を現代演出にも広げ、作劇法と演劇性を多角的に考察した。この研究により、上演に際し観客との関係において機能するマリヴォーの「露呈の作劇法」およびその演劇性が明らかとなった。

研究成果は、『百科全書』・啓蒙研究会で発表した（2014年1月）。また、前年度の国際シンポジウムにおける発表内容（マリヴォーの演劇性に関するもの）を発展させ、深めたものを論文にまとめた（2014年1月）。

この時代の演劇状況については、17世紀からの流れも考慮し、特に政治との関係性に注目して研究内容をまとめた。また、同時代人ルイージ・リッコポーニによって書かれた劇場の構想に関する論を翻訳し、ともにWeb上で公開した（2014年3月）。

なお、本研究を進める上で日本におけるマリヴォー研究の歴史と現状、上演状況についての調査も行ったが、日本のマリヴォー研究は国外ではほとんど知られていない。そこで、日本のマリヴォー研究について、パリ第四大学の研究会で報告した（2014年3月）。この報告内容をより深めたものを、今後フランスの演劇史雑誌に投稿し、公表する予定である。

(4) 18世紀フランス演劇研究は、近年特にフランスで進展を見せているが、古典劇と称される17世紀演劇と比べると十分であるとは言い難い状況である。こうした中で、本研究では、特に研究が進んでいない18世紀前半の劇作家と喜劇作品に光をあて、その中でもマリヴォー喜劇の特異性を演劇学の観点から明確にし、マリヴォーの演劇史における重要性を示した。なお、マリヴォー研究はこれまで文学的アプローチが主流であったが、本研究では演劇学的視点を持ち込み、観客と上演の機能を視野に入れた研究を行うことで、これまでの研究状況を打破し、新たな方向性を示した。これらの点に、本研究の重要性と意義がある。

一方、フランスと異なり、日本では、18世紀フランス演劇およびマリヴォー研究者が極めて少ない。そのため、日本において、特に18世紀前半のフランス演劇の全容を把握する環境づくりに貢献した点にも、本研究の重要性がある。また、分野を限定せずに学際的な視点を持って成果発表を行い（演劇、文学、思想等）さまざまな分野の研究者と意見交換をしたことで、結果として、日本におけるマリヴォー劇研究の可能性を広げることにも貢献できたと言える。

さらに、マリヴォーの作劇法を中心に 18 世紀フランス演劇の諸相を解明することは、18 世紀フランス演劇の全体像を把握することにつながる重要な研究である。結果として、本研究は、18 世紀演劇だけでなく前後の世紀（17・19 世紀）の演劇研究にも新たな展望をもたらすものであり、この点は、前後の時代の演劇研究のさらなる発展にもつながると考えられる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 5 件)

奥 香織、「17-18 世紀フランスにおける演劇と政治 新・旧イタリア人劇団の上演環境をめぐって」, Web 公開 (<http://www.engekieizo.com/dramaturg/outcome/>) 査読無、2014、1-6

奥 香織、「マリヴォーにおける「露呈」の演劇性」, 『日仏国際シンポジウム 演劇と演劇性』, 早稲田大学 演劇映像学連携研究拠点、査読無、2014、71-80

奥 香織、「マリヴォーとイタリア人劇団 演劇創造の源泉としての演技」, 『西洋比較演劇研究』, 西洋比較演劇研究会紀要(電子ジャーナル) 査読有、12号(No.2) 2013、187-198

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ctr/12/2/12_187/_pdf

奥 香織、「18 世紀パリのイタリア人劇団とその演技」, 『日本橋学館大学 芸術フォーラム叢書 3 18 世紀ヨーロッパにおける演技の展開』, 日本橋学館大学、査読無、2012、4-19

Kaori Oku, « Du type au personnage : caractéristiques et fonctionnements d'Arlequin dans les comédies de Marivaux »(「型」から「登場人物」へマリヴォー劇におけるアルルカンの特徴と機能) 『演劇映像学 2011』第 5 集、早稲田大学演劇博物館、査読有、2012、43-63

〔学会発表〕(計 5 件)

Kaori Oku, « Marivaux au Japon, traductions et représentations »(日本におけるマリヴォー 翻訳と上演をめぐって) パリ第四大学研究会、2014 年 3 月 15 日、パリ第四大学

奥 香織、「マリヴォーにおける「発見/露呈」 作劇法、思想、上演の機能をめぐって」, 『百科全書』・啓蒙研究会、2014 年 1 月 25 日、慶応義塾大学

Kaori Oku, « La théâtralité de la "découverte" chez Marivaux »(マリヴォーにおける「露呈」の演劇性) 日仏共同国際シンポジウム「演劇と演劇性」, 2012 年 10 月 31 日、早稲田大学

奥 香織、「18 世紀フランス演劇とイタ

リア人劇団 演劇創造の源としての演技」, 西洋比較演劇研究会シンポジウム「18 世紀ヨーロッパにおける演技の諸相」, 2012 年 10 月 13 日、成城大学

Kaori Oku, « L' influence mutuelle de deux traditions : création, caractéristiques et fonctionnements des valets dans le théâtre de Marivaux »(マリヴォー劇における下僕の創造、特徴、機能 二つの「伝統」をめぐって) 国際演劇学会、2011 年 8 月 10 日、大阪大学

〔産業財産権〕なし

〔その他〕

ホームページ等

ルイージ・リッコボニ(奥 香織 訳) 「劇場の構想とその他の規則」, Web 公開 <http://www.engekieizo.com/dramaturg/outcome/>

ピエール・フランツ(奥 香織 訳) 「18 世紀末における演劇と絵画 タルマとダヴィッドをめぐって」, 『演劇映像学 2010』報告集 1、早稲田大学演劇博物館、2012、131-145

ピエール・フランツ(奥 香織 訳) 「マリヴォーをめぐって その思想と現代性」, 『演劇映像学 2010』報告集 2、早稲田大学演劇博物館、2012、93-109

6. 研究組織

(1) 研究代表者

奥 香織 (OKU, Kaori)
早稲田大学・演劇博物館・招聘研究員
研究者番号：30580427

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：